



# 焼野のわらび

2008年の岩手、宮城内陸地震の  
被災後の野、栗原地区は3.11の時も  
震度7の揺れがあった。

越後の、毒消し売りが……。



栗駒の郷で美しい  
唄に聞きほれた



わしも  
アラなりたや  
栗駒山に

美しい唄だ  
のうら。





北側の窓を

覗いてみたんだと



花と アラ もみじは

どちらも色よ

花は

アラ ほころぶ



わしと アラ お前は

わらび焼けても

サアサ 根が残る

「おお！」

いとしげだのう！」

と意味深な歌詞に

感激して

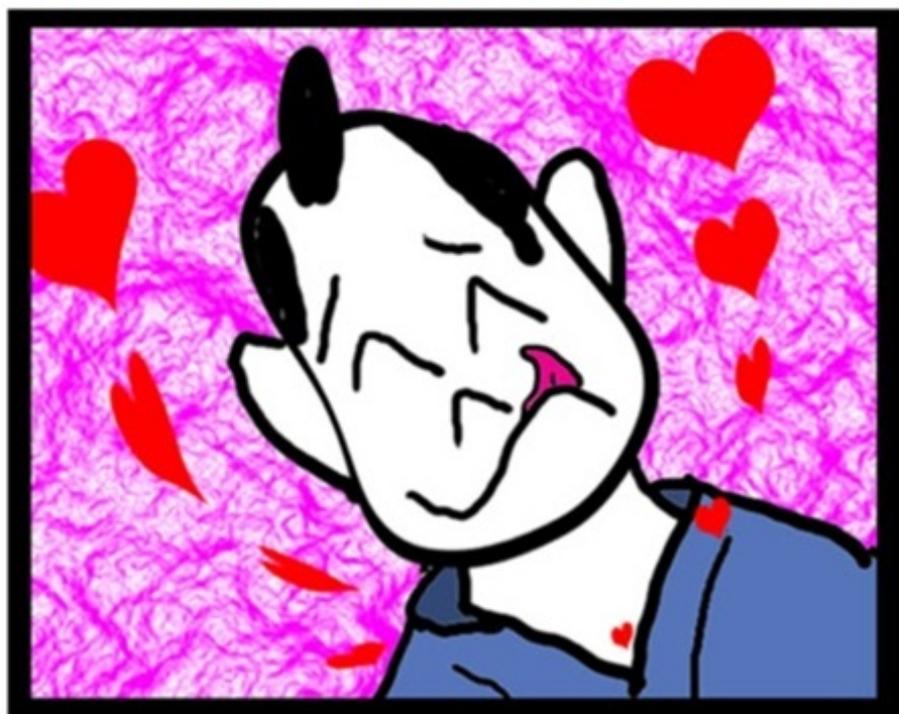


一目ぼれしたんだと

若ヶもの

やるせなくて

やるせなくて



とうとう天にも

昇る気持ちになり

やしやねぐって

(切羽詰まって)

毒消し売りっさ行く

ついでにまんずまんず

「娘さん気にいっ

た嫁にくんねえかのう」  
って



娘の親に頼みに行ったんだど



二人は目配せ  
するように喜んだ。



親んつぁんは快く承諾し、来年まで待ってくれ  
といった。

そして越後に帰って

栗駒の麓の  
村でとても  
いい娘見つけて

親に嫁に  
もらおう約束  
してきただ



はか！  
行商の何処の



馬の骨とも  
わからない野郎  
はい、と娘を  
くれると  
思っ

1、なにか、あるぞもし病気やカタワだったら

オメエ！勘当  
だからな！



「大丈夫だ！郷の家々に噂聞いても

誰ひとり悪口言う人いなかったで  
のう」  
って怒られたけど、次の年喜び勇んで郷さあ来てね

そして一年経った

夏の終わり

娘は、男に初めて

会う日に……。



今日、毒消し売りの吉助さんがオメエに会いに来る



「ほだがら鬚結って小奇麗にするや！」  
あつ何する！

そしてこの男、里中、行商の  
ついでに娘のこと聞き回った  
んだど〜。



「ああ、世衛門さんの  
娘が！器量よしの働き者  
だ」と誰ひとり悪口を  
言う者がいなかったので、

スッカリその気になって  
夏も、終わり

背負う荷やわらじ  
弾むか鯛雲

と、越後に  
帰っていったんだと





「こんなこんな眼でも」

「なにすんの!」

「その人は気変わん

ねえがったら

嫁にいつでも良い!」

方々で毒消し売り歩き

娘の家を訪れて



娘は  
びっくらさせて  
申すわけござりん。  
わだすを嫁に  
もらう前にホントの  
わだすをみていただ  
きかったのですがす。



やや、びっくらさせて  
申しわけござりん  
あの目は小さい時、  
イモガサ(天然痘)で  
潰れたんでござります。

あんだ、娘は片目以外、  
立ち振る舞い姿、顔と言  
母のわだすがいうのも  
なんだけどホントに器量  
よしだ！







男の手は  
ワナワナと  
震えた……。

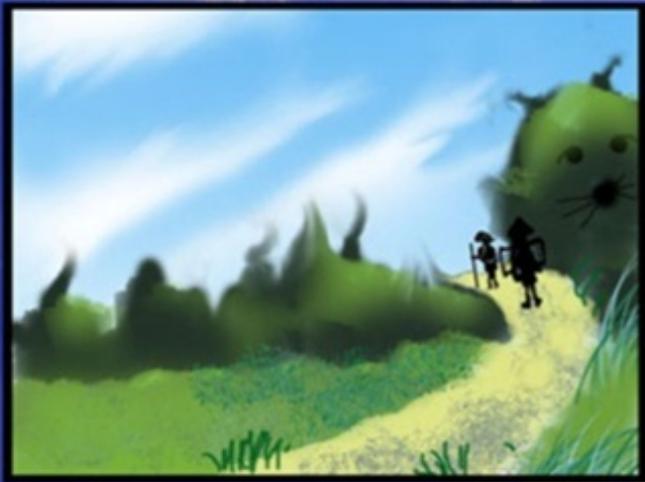


わだす  
見たいな  
化け物嫁に  
したんではロク  
なこと  
ねえ

いや、はなさん  
には気品がある。



人々を救うのが  
毒消し売りの仕事、  
一緒に人びとを  
救う仕事をやんねえ  
かのう



と言うことで  
男は娘を越後に  
連れ（ちで）  
帰（きや）た。

男は勘当され  
るのが、嫌で  
娘を殺そう  
と思っていた。  
娘は殺気を  
感じ！



なん  
？

急に眼帯を  
はずすなよ  
たまげったば！





声する方へ行ってみると

一人の女（おなご）が倒れて

いただけっと、

「何すたの？」

腹ハッテ

しょうがねえんだ

たぶん産気づいたん

だべ

「あんだ

人を救う毒消し売り

だべ助けてやれ！」

どうせ、乞食女だ

放っておけ！





ウワーン  
嫌（やん）だ  
ウワーン  
嫌（やん）だ

オラの身代わりに

赤ん坊が死んだんちゃ

オラ旅芸人に騙されて

腹んでしまっ

「役者にしてやる」って

言わって

かけおちすっぺと

いうことで、

ノコノコついていったけ

「オメェみでな、

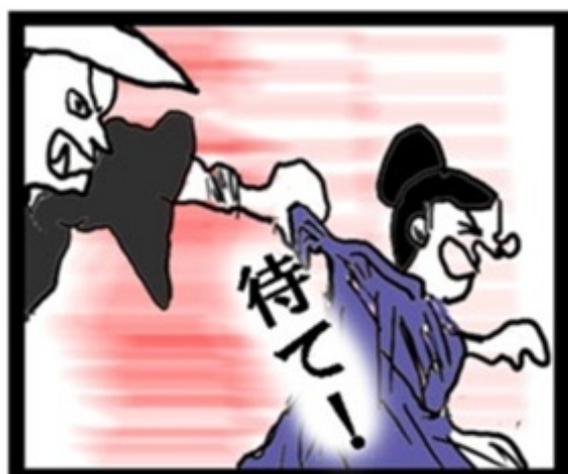
ブスなんかいらねえ」って

沢さあ

落とされて……。



つまり  
殺される  
ところだっ  
たんだ！



生きてんの  
嫌 (やん)  
だくなつた



連れ  
の女、  
殺そ  
うと  
考  
え  
て  
い  
た



本当のこと  
言う  
と  
オ  
ラ  
も  
さ  
っ  
き  
ま  
で



だ  
け  
ど  
オ  
メ  
エ  
が  
俺  
の  
目  
を  
覚  
ま  
さ  
せ  
て  
く  
れ  
た  
の  
だ  
!

そだごと

最初から

わかっていだ



オラも家

追(ぼん)出<sup>だ</sup>

されだんだ



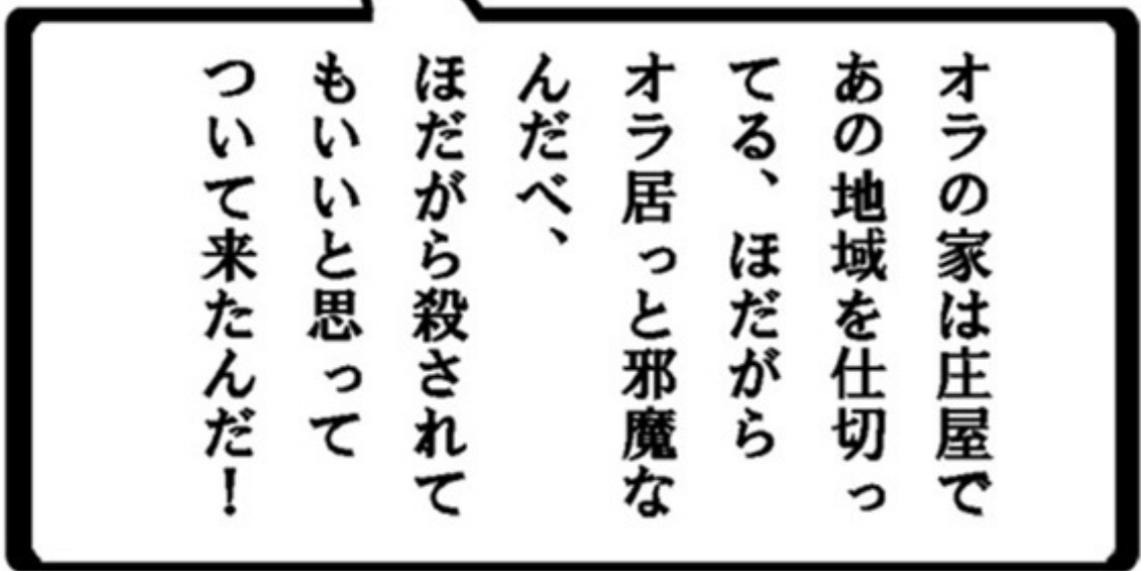
何!



兄ちゃんが  
嫁もらうの  
にオラ居っと  
邪魔なん  
だべ



オラの家は庄屋で  
あの地域を仕切っ  
てる、ほだから  
オラ居っと邪魔な  
んだべ、  
ほだから殺されて  
もいいと思って  
ついて来たんだ!





殺す？  
こんな美人の  
人をなして？

美人？  
最初、うすくらしい  
機織場でみたときは  
そう思った



花は  
ほころ



あってビックリした  
国の親父にカタワ  
だったら勘当と言われ

それでひとめぼれ  
した訳だ、だけど  
片目に大きな穴が

のを思いだして



ご両親から諭さつ  
た時から  
考えっただんで！

さっき、はなさんが

庄屋の娘と

言いましたね



それは、この地域の

お得意先を親父さん

の一声で消えることを意味し、



こりゃ  
大変だ  
と思い！

見せかけの承諾

したらも

心の中にあ

悪霊が棲んで

たんっだれや！





しかし、オメエ  
着物の裾、お産の血だ  
らけだぞ

名なんて  
いうんだ

ゆき！



この近くに  
湯治宿あるから  
そこで今夜は  
泊り洗って乾かし  
てなそう



わだすの浴衣  
貸してあげる  
実家はどこ？

わだすたち似てるね

紅葉萌ゆ

湯気（ゆげ）に

透けたる君が肌



ウワーお、女の  
わだすでもウツトリ  
すっぺ！

うん、片目なんか気に  
ならんのう後光が  
さしておるのう！



吉助の差別の眼の鱗は落ちた。

一行は、昼食と夕食が

一緒のおにぎりとおしんこだけの

おしんこだけの

食事をまだ陽の沈ま

ない時分に取った。



不思議  
だちや  
昼間、半分  
死にかけ  
今、飯食  
える



そいつは、オラ  
だって同じだ！  
吉助さんに殺さ  
れだかも知れ  
ないだちや



オラはオメエの  
おかげで人助け  
でき、目が覚め  
はなの本当の  
美しさを  
知った！





ことうやって  
人とご飯  
食べたの  
子どものとき  
以来だ

いつも機織  
り場の茶の間  
で自炊して  
一人でばり  
食ってる



目がイモガサ(天然痘)  
で取れた十の時から  
ズート機織り場で  
寝起きし、ご飯も  
一人で食ってる。



婆ちゃんが生きていた  
わだすが十五までは  
婆ちゃんと寝起きし  
機織りから民謡、飯焚き  
なんでも教えてけた…。





なに父<sup>トット</sup>さま  
と母<sup>カカ</sup>さまとも  
あわねえのが



うんだ誰とも会わ  
ねえ蛍の季節なんか  
黙って蛍は捕まえに  
行っていた。噂で  
わらす幽霊って！



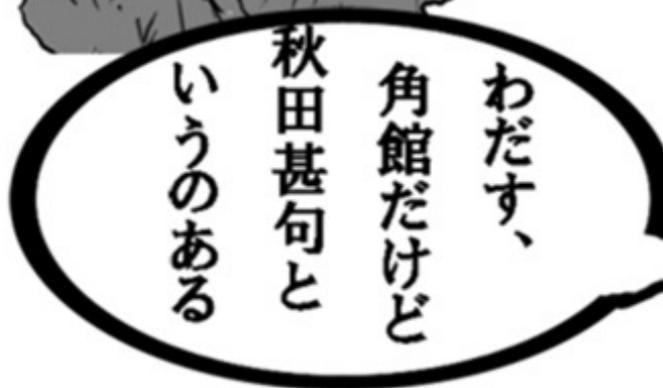
話<sup>トット</sup>こすねえ  
と口、動かねえ  
くなっぺ！



はなは、歌  
うたって口動か  
しているんだ。  
文字甚句ウメエ  
ぞ！



はな、得意  
な文字甚句  
歌えやあ!



わだす、  
角館だけど  
秋田甚句と  
いうのがある

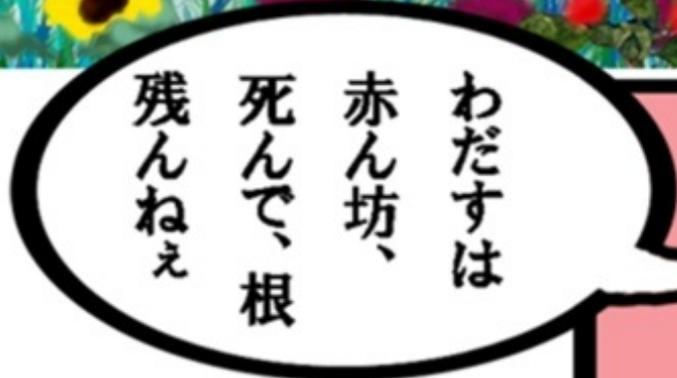


わしと アラー お前は

焼野のわらび

わらび焼けても

サアサ 根が残る

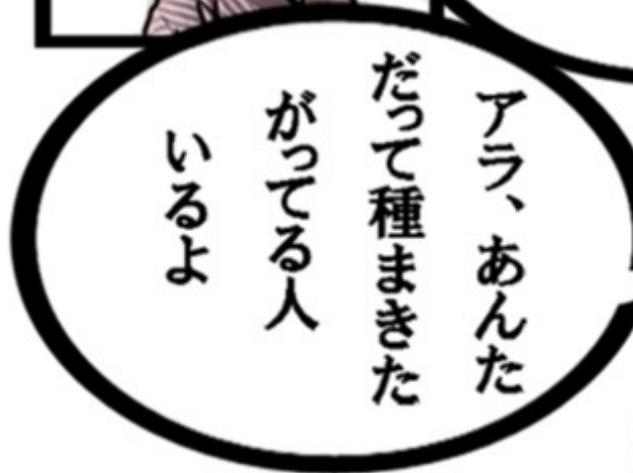


わだすは  
赤ん坊、  
死んで、根  
残んねえ





まだ十六、  
畑にたねまく  
人がキツト  
いるよ



アラ、あんた  
だって種まきた  
がってる人  
いるよ



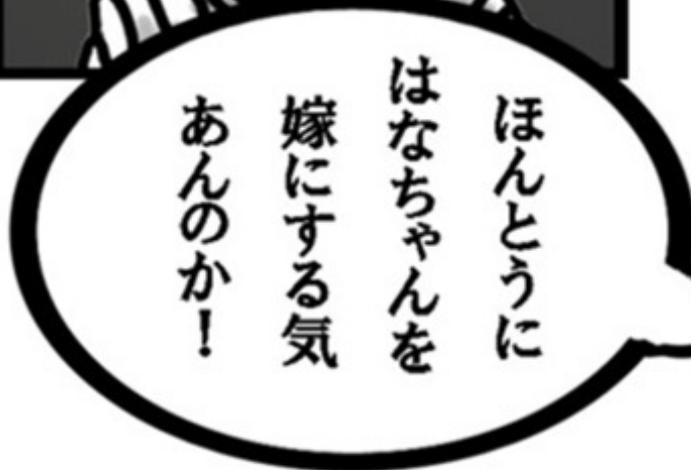
風呂で  
あんたの裸を見て  
吉助さんが片目  
なんか気になら  
ないだって

郷の人がはなの  
家はおとりつぶ  
しなった、  
殿さまではな様  
は、ほんとうは  
姫さまじゃと  
言っていた。





天保十二年  
のわたすが  
二つの時だ！



ほんとうに  
はなちゃんを  
嫁にする気  
あんのか！



すまねえ越後の親父を  
説得して一緒に毒消し売り  
あるごう！

どういふ、いふな  
目で、お恥  
(おしよしく)て  
売っさなんか  
行けねえちや

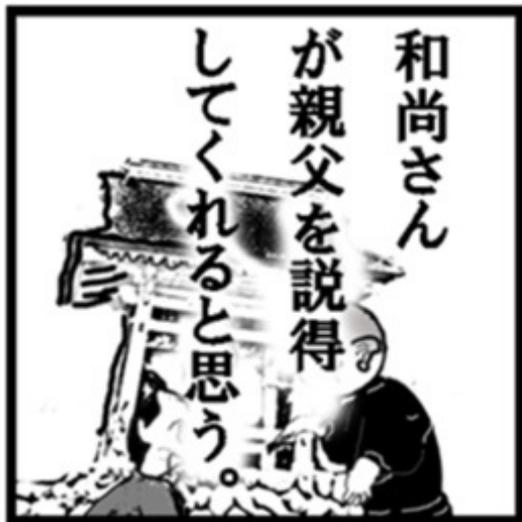
大丈夫だ、  
眼帯すれば  
気に何ねえ

それに、はなの地域を  
主に回るのでそれほど  
問題ねえんでないか

なんではなを連れて  
歩くかと言うと、越後の  
親に気を使わない  
ためだ、親父は勘当  
するって言ってるけど、

毒消し売りの指導は  
寺だ！  
オラが出まかせで言った  
救済というのが毒消し  
売りの精神で  
寺の和尚さんにはなの  
事情を話せば

和尚さん  
が親父を説得  
してくれると思う。

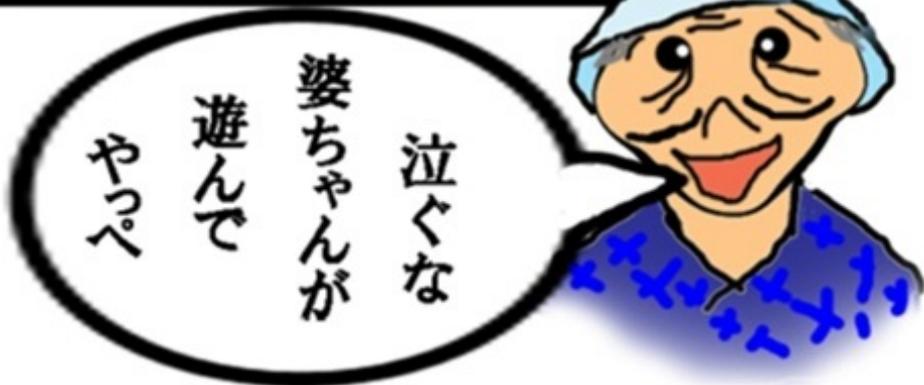




たすかに親に  
隠されていた  
うんだども自分で  
自分を隠して  
いたんだ



オラこんな眼(まなぐ)  
だから、いつも  
苛められて誰も  
遊んでくれねがった



泣くな  
婆ちゃんが  
遊んで  
やっぺ

と言ってくれた。



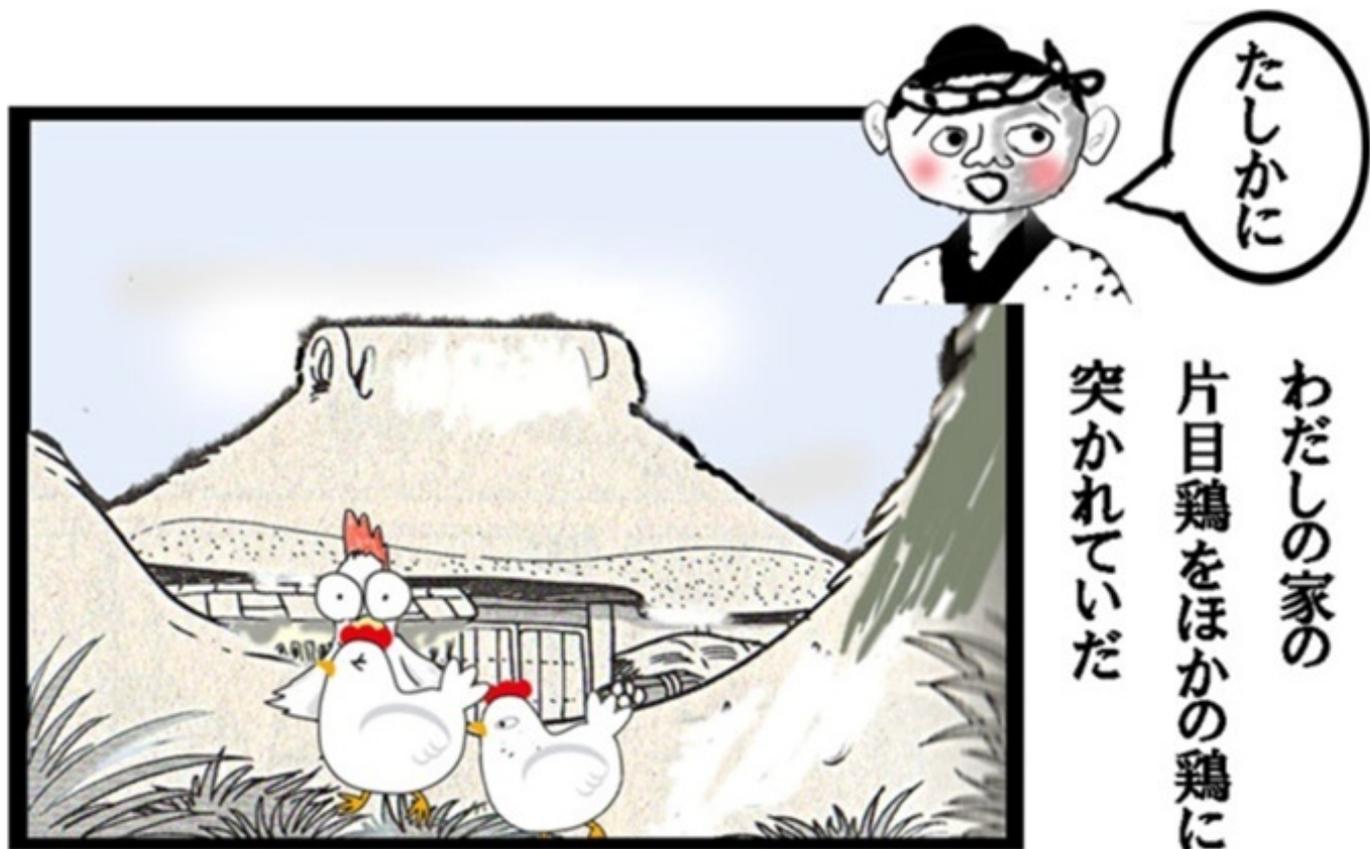
あんだ最初に  
わだすの素顔に  
驚いたべ



そいつはわらすの  
時、ガキどもの  
好奇の目と同じで



人の本性だべ、わだすが  
隠していることも悪いと思う  
うんだな郷の者に売っさ歩いて  
イモガサ顔に慣れてもらおうべ！



オラも童(わらし)の時、  
ピッコの子  
苛めたことがある



そうだな  
隠さず見せれば  
段々慣れるかも  
知れねえな

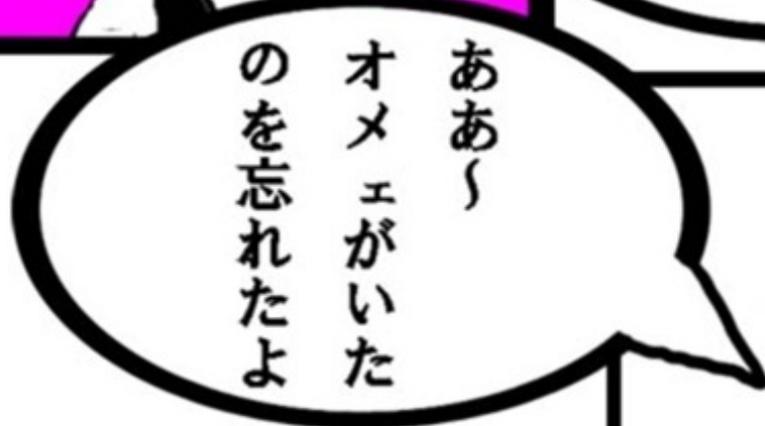




わお〜



はなちゃん  
幸せで  
羨ましい！



ああ  
オメエがいた  
のを忘れたよ



あんだの  
赤ん坊取り上  
げただけど  
言わけを教  
えてよ



わだすのは夜這いだよ  
毎晩、毎晩、夜這い

されて情、移ってすまっ  
て好きで好きでしゃね  
くなっただの

オメエなんかイラネエ!

と突き飛ばされ!



幸せな気分がら、真逆さっまに  
地獄に落とされ!そして地獄から  
這い上がって、あんだたちに助けられだの、  
ほんとにありがとうござりすた。



ああ  
気にすんな

気持ちいい  
ことに夢中に  
なり、それを  
好きだと思ひ感  
違いすることが  
よくある



わだすだつて  
今頃、かや野  
の露だったかも  
知れない

家（うぢ）がら  
持ってきた鮭、  
食わねえ、あッ  
でるねえ



そういうことで  
一同、黙とうを  
し、葬式が終  
わったことに  
ことにし、魚を  
食べることに  
した。





ゆきちゃん、  
角館  
に帰る旅費を  
わだすの結納  
から貸すね  
いい吉助さん



貸す、呉  
れてやんなよ  
明日、皆瀬まで  
一緒に行こう！



何から何まで  
ありがとう  
ござりす  
わだすの家  
商家なのできつと  
返すがらね

一行は

関所を

通ろうと

したとき……

バカ!

落とした

のか!

あっち行け

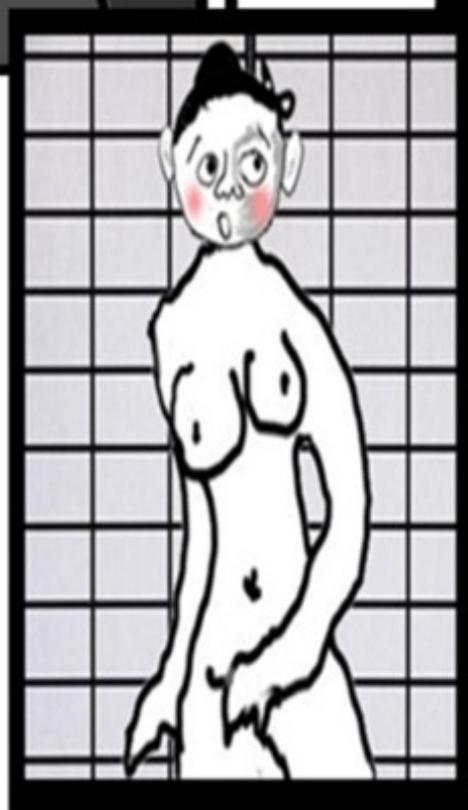
脱げちゃ

ゆきは結局

改め婆(ばば)の前で

裸になり陰部まで

改められ 吉助が機転を



きかせ、役人とはばあに

賄賂をわたしなんとか

関所を通過できた。

あっ手形  
ねえ



吉助とはなは

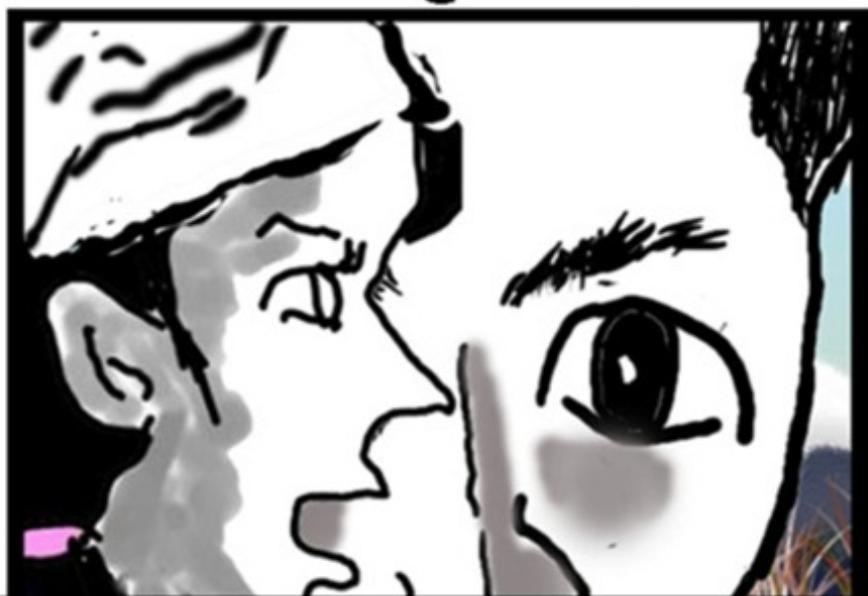
皆瀬の峠でゆきと

別れ、ゆきは湯沢

横手へ角館の道を行く



一方、吉助たちは  
庄内へ越後の道を行く  
ゆくゆきの後に  
一頭の早馬が駆けて  
行った。



「あれは、仙台藩  
の速馬だチャ」

「何かあるのか!」

使者は秋田藩の尊王派によって首を切られてる

下巻へ続く

焼けのわらび上巻

<http://p.booklog.jp/book/36173>

著者：ろっぽん

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/roprop/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/36173>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/36173>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.